



巻頭言

持続可能な社会構築における 化学産業の役割



●
森川宏平 Kohei MORIKAWA

日本化学工業協会会長

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大により、世界的に不安と混乱、経済の停滞が起りましたが、この苦難を経て世界は、カーボンニュートラルや循環経済をはじめとする持続可能な社会構築に向かって急速に進んでいます。米国も政権交代により、環境・経済政策の両面で大きく転換すると予想されますが、我が国の政策においても、デジタル化・グリーン化が掲げられています。

グリーン化政策に伴い、様々な産業で製法や材料の代替などの大きな変化が起きる可能性があります。化学産業は、常に時代の変化に対応し、新しい時代で求められるものを提供することができます。健康で豊かな生活に必要なだけでなく、再生可能エネルギー創出システムにおいても、リチウムイオン電池や風力発電ブレードに使われる機能性素材などの化学製品が不可欠です。

特に、昨年菅総理から示された2050年カーボンニュートラルは、野心的な目標ですが、持続可能な社会に向けてのあるべき姿です。その実現には資源循環型社会に向けた取り組みが不可欠であり、ケミカルリサイクル、CCU (Carbon dioxide Capture and Utilization)、人工光合成など、化学産業が進める技術革新への期待がますます大きくなっています。日本化学工業協会(日化協)は、循環型社会の視点に立ったライフサイクルでのCO₂評価を進め、化学製品・イノベーションが環境負荷低減に資することを発信していきたいと考えます。

このように、あらゆる資源の循環利用の確立が喫緊の課題となっている中、日化協は昨年末、柱の1つである、プラスチックのケミカルリサイクルを推進すべく、「廃プラスチックのケミカルリサイクルに対する化学産業のあるべき姿」を策定しました。あるべき姿で定めた長期戦略の推進にあたっては、技術的な課題だけでなく、環境価値を認める社会醸成など、社会実装するための課題も多く存在します。資源循環型社会への貢献や、カーボンニュートラルに向けて取り組むことは、日本の化学産業が国際競争力を保つ上でも重要です。日本全体として力を発揮していくために、日化協は政府・行政、企業と連携して取り組んでいます。

私たち化学産業は、社会課題に対するソリューションプロバイダーとして、経済成長と持続可能な社会づくりを両立し、社会の変革をリードすべく、不断の努力とイノベーションを継続していきたいと思えます。

© 2021 The Chemical Society of Japan